

Go Beyond～今の自分を超えてゆけ！～

校長漫筆記

令和8年9月4日
姫路市立高等学校
校長通信 第19号
文責 平山智樹

「自分事」として備える 一災害から命を守るために一

9月1日は「防災の日」でした。100年以上前の関東大震災を契機に制定されたこの日ですが、近年は過去の歴史としてだけでなく、私たちの「今」と直結する切実なテーマとなっています。



直近の1か月を見渡すだけでも、地球規模で甚大な自然災害が相次ぎました。熊本での地震、北陸や千葉を襲った記録的な豪雨、そしてネパールでの大規模な土石流。激しい揺れや濁流に胸を痛めた人も多いはずです。

こうしたニュースを見ると、どこかで「遠い場所の出来事」と感じてはいないでしょうか。しかし、ここ姫路市周辺も、南海トラフ巨大地震の警戒地域であり、河川の氾濫や土砂災害のリスクと隣り合わせです。災害は、決して他人事ではありません。

「他人事」と考えていたこれまでの自分をGo Beyond（超えてゆく）し、防災を「自分事」として捉え直してみましょう。中学生時代に比べて通学範囲が格段に広がった1期生の皆さんには、特に次の3つの行動を日常から意識してほしいと思います。

- 「もしも」の避難行動を日常でシミュレーションする： 登下校中や教室、自宅で被災したとき、どこへ逃げるか、家族とどう連絡を取るか具体的に確認しておきましょう。
- 通学路や身の回りの危険箇所を知る： 普段歩いている道にあるブロック塀や増水しやすい河川など、ハザードマップと照らし合わせて危険度を把握してください。
- 「安全安心な学校」を自分たちの手で維持する： 避難訓練への真剣な参加はもちろん、廊下に物を置かない整理整頓や、互いに声をかけ合う関係づくりも立派な防災です。

学校は、皆さんが安心して学び、成長するための基盤です。しかし、その安全と安心は与えられるものだけではなく、生徒一人ひとりが「自分の命は自分で守る」「互いに助け合う」という高い意識（自分事の視点）を持つことで初めて強固なものになります。

災害は予告なくやってきます。ですが、準備と心構えは今この瞬間から始めることができます。正しく恐れ、賢く備える知識と行動力を身につけていきましょう。この週末、ぜひ家庭でも防災対策や万が一の際の連絡方法について話し合ってみてください。

一人ひとりの「気づき」と「備え」が、私たちの学校と皆さんの未来を守る確かな力になります。